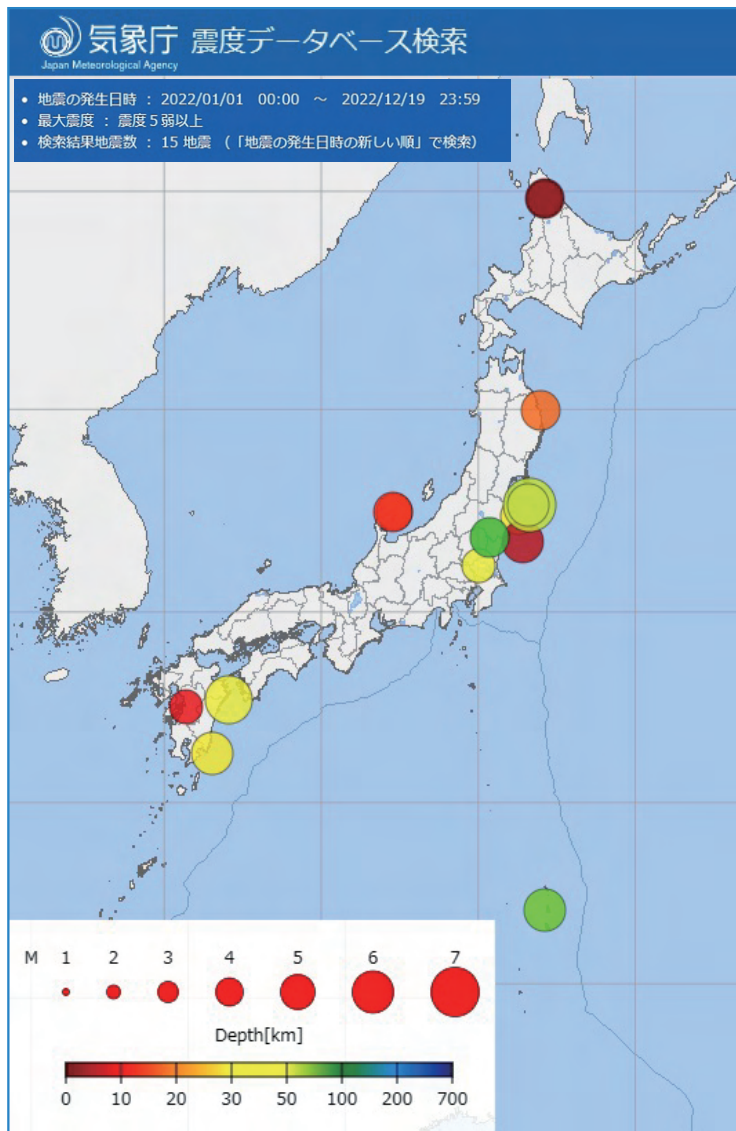


# 2022年の地震発生回数は昨年より減少

## 首都直下地震・南海トラフ地震の発生確率は高まった？ 下がった？

### 2022年、震度5弱以上の地震は15回発生。



2022年に発生した地震に関し、メールマガジンでは「震度4以上」の地震が発生した場所を示しましたが、左図では「震度5弱以上」に絞り込みました（データと元図は気象庁データベースのものをアレンジしてあります）。

下表ではそれぞれの地震の特性を示しました。関東地方と東北地方の太平洋岸では、東日本大震災の余震と思われる地震が発生しています。また、四国西岸から九州南部にかけての地域にも大きな地震が数回発生しています。この地域は、南海トラフ地震が懸念されている地域の西端になります。

東日本大震災の大きな余震も、依然として気になりますが、それ以上の大きな規模の地震の危険性がある首都直下地震、南海トラフ地震が「いつごろ、どのくらいの規模」で起きるかも、とても気になるものです。

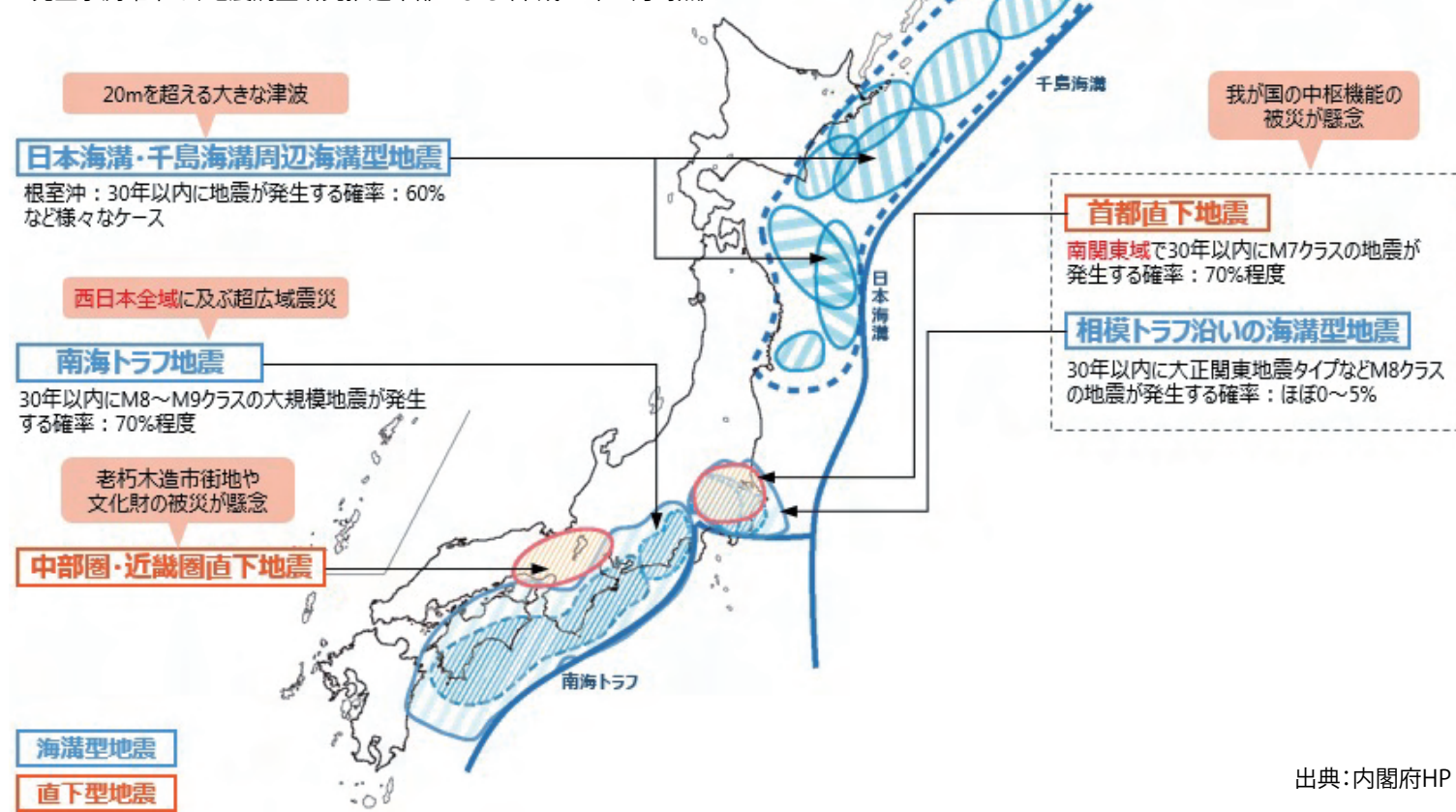
#### ●2022年に発生した震度5弱以上の地震

発生日	発生場所	地震規模(M)	最大震度	メモ
1月4日	父島近海	M6.1	5強	太平洋プレート内部で発生した横ずれ断層型地震
1月22日	日向灘	M6.6	5強	フィリピン海プレート内部で発生した地震
3月16日	福島県沖	M7.4	6強	太平洋プレート内部で発生した逆断層型地震
3月18日	岩手県沖	M5.6	5強	陸のプレートの地殻内で発生した横ずれ断層型地震
4月19日	茨城県北部	M5.4	5弱	太平洋プレート内部で発生した地震
5月22日	茨城県沖	M6.0	5弱	陸のプレートの地殻内で発生した横ずれ断層型地震
6月19日	石川県能登地方	M5.4	6弱	2020年12月1日から2022年7月8日の間に震度1以上を観測する地震が183回発生
6月26日	熊本県熊本地方	M4.7	5弱	地殻内で発生した横ずれ断層型地震
8月11日	上川地方北部	M5.4	5強	8月11日から9月8日08時までに震度1以上を観測する地震が28回発生
8月11日	上川地方北部	M5.2	5弱	〃
10月2日	大隅半島東方沖	M5.9	5弱	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した逆断層型地震
10月21日	福島県沖	M5.0	5弱	陸のプレート内で発生した正断層型地震

## 今後30年以内に想定される大規模地震の発生確率は何%？

### ●想定される大規模地震

※発生予測確率は、地震調査研究推進本部による(平成29年1月時点)



内閣府や地震調査研究推進本部による大規模地震を、海溝型地震と直下型地震に分けて示したのが上図です。

#### 【海溝型地震】

- 日本海溝・千島海溝周辺……根室沖に30年以内に地震が発生する確率は60%
- 相模トラフ沿い……30年以内に大正関東大震災タイプの大地震の発生確率は0～5%
- 南海トラフ地震……30年以内にM8～M9クラスの大規模地震の発生確率は70%程度

#### 【直下型地震】

- 首都直下地震……南関東域で30年以内にM7クラスの地震発生確率は70%程度
- 中部圏・近畿圏直下地震……30年以内にM8～M9クラスの大規模地震の発生確率は70%程度

## 「大地震は明日起きるかもしれない」 早めの対策が重要です。

このように、大規模地震発生の確率はかなり高まっていると想定されていますが、それ以外の地域でも決して安心はできません。2016年4月に発生した熊本地震は、布田川断層帯付近で起こりました。この地域のM7クラスの地震発生確率は、30年以内に1%未満と予測されましたが、それにもかかわらずM7.3の本震とM5.4～M5.9の複数の余震に見舞われています。

日本で発生するM6以上の地震発生数は、世界の約2

割を占めています。プレートの移動による大地震だけでなく、大規模地震を起こす活断層は、北海道から九州までに約2000箇所もあります。それ以外にもまだ見つからない活断層もあるといわれているので、大規模地震の懸念があると言われている地域だけでなく、いつ、どこで大きな地震が起きてもおかしくありません。それだけに、地震に対する対策は国や自治体だけでなく、家庭でも行っておく必要があります。